

2024(令和6)年度 入学試験問題

東大・医進クラス 2月1日 AM

国語

注意

- (1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
- (2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
- (3) 声を出して読まないこと。
- (4) 解答は全て解答用紙の所定の欄らんに記入すること。

受験番号	<input type="text"/>				
座席番号	<input type="text"/>				

解答用紙の受験番号欄らんは、1マスに1つずつ数字を記入してください。

※問いに字数指定がある場合は、句読点なども一字として数えます。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

結論から言うと、翌日からミタセンは学校にあらわれた。

夕方になると、きのうまでのトラブルなどなかったかのように、平然と吹部の指導をはじめ。もしオレが同様の立場だったら少しくらい気恥ずかしくなるはず。そういつた感情はいつさい持ち合せていないようだ。

そして、とてつもなく厳しい練習がはじまった。

全日本への第一次予選まであとちようど三週間。ミタセンは遅れを取り戻そうと必死なもんだから、ときには以前のように楽譜を投げることもある。

「違う違う、そこ、出だしきたないよ。柔らかいタツチの音ちようだい」

「足りない足りない。全然音量が足りてない。もつともつと。窒息死してもいいから吹いて吹いて吹きまくって」

指導は細かくて粘り強く、納得するまで決して次に進まない。

夕方からはじめる合奏は連日十時、十一時まで引つ張られる。

しかし部員たちの間から不満の声が漏れることはなかった。名指しで立たされて演奏し、

「ダメダメダメ」

と個人的に集中砲火を浴びても、

「はい、わかりました」

「もう一度、お願いします」

誰もが食らいついていく。

① みんな本当に変わってしまった。

部員たちの感じていることはオレにもよくわかる。

「このひとはわたしのことを真剣に見ていてくれる。聴いてくれている」

こんな安心感が全員にあるからこそ、もはやなにを言われても大丈夫なのだ。

むしろダメ出しを連発され、何度も同じところを吹かされても、

「もつとわたしの音を聴いてください」

と積極的に自己アピールしているようにさえ感じてしまう。

「音を創るんです。だすんじゃないよ。音なんかでる。感動させる音を創るんです。どうやって感動させるのか。どうやってひとの心を揺

さぶるのか。聴いてくださるお客さんのことを考えながら、キミたちの気持ちを届けるように音をだそうよ」

「はい」

ミタセンの伝えようとしている想いが集団にしみわたる。

いまオレたちがどの段階にあり、めざすレベルとはどれくらい乖離しているのか、みんなミタセンのスケジュールノートを見たことわかつているのだ。

夏休みなので、本来は午後からスタートすることになっていっているんだけど、朝はやくから続々と部員が集まってくる。弁当は二つ持参。夕食の分は腐るといけないので、登校するとすぐに家庭科室の冷蔵庫に入れておく。

みんな家には寝るためだけに帰っているようなものだろう。

しかし疲れた様子はまったく見受けられない。

個人練習ではミタセンのノートに書いてある指摘を少しでも自分のものにしようと必死になっている。

午後のパート練習の時間になると、あちこちで人の輪ができて、お互いの音を聴き合うようになる。

「ちよつと、このフレーズ、できてるかな？」

「やってみて、うん、ちよつとアタックがきついかも」

お互いがお互いの音を吟味して、批評することが習慣となる。

こういった練習は合奏の際に生きてきた。

いままで、あれだけミタセンに注意され続けながらなかなかできなかった「周囲の音を聴く」ということが自然と身につくようになってきたのだ。

自分の音を聴き、周囲の音を聴き、そして調和させる。

オレたちの音は日に日に精度を増してきた。

吹部が覚醒したのである。

「きれいな音がでるようにはなってきた。音量も少しずつアップしてる。あと足りないものはなにか。歌だよ、歌。歌うんだ。楽器で歌うんだ。ハーモニーを意識して歌ってみよう。いまキミたち以外に聴いているひとはボクしかない。だからボクを感動させて。ボクを踊らせて。キミたちの歌で」

「一人ひとりの声はか細くても、みんなで懸命に編んでいけば、色彩豊かな極上のタペストリーになる。もうちよつと。はい、もう一回」

吹部のみんなが爆発的に成長する一方、オレは自分のなかに焦りを覚えていた。

届かないのだ。

自分のイメージする音に……。

オレの音には表情がない。音でしか伝えられないオレの気持ちを楽器が乗せてくれない。

なにかのヒントになるかもしれないと思い、モーツアルトのオーボエ四重奏曲へ長調、ブラームスの交響曲第二番やベートーベンの交響曲第三番「英雄」などオーボエの目立つ曲を聴いてみる。

② その豊かな表情を耳にしたあと、自分の音を聴くと死にたくなってきた。聴かなきゃよかった。

自分に自信がなくなってくると、いままでバカの集団だと思っていた吹部のヤツらにすら負けているような気がしてきた。真っ赤になつてチューバに息を吹き込んでいる鍋木沙耶が偉い人物のように思えてくる。目の錯覚かもしれないけど、オレのなかでは最底辺に位置するはずの八幡太一ですら輝いているように見えてくる。

もちろん表情はおろか、おくびにもださなかつた。

自分の悩みなど誰にも相談していない。

プロのオーボエ奏者であるオヤジに聞いてみたいことはたくさんあつた。

でもそこには頼りたくなかつた。またいっしょに演奏をすればじめ、音楽が嫌いになつたり、オヤジと衝突したりしたら、今度こそ取り返しのつかないことになる。

考えていることはただひたすら自分の音楽ノートに書き出した。

これは吹部に入ったときからつけているものだ。練習が終わつたあと、その日の出来不出来、これからの課題、練習方法の是非など、音楽に関することを委細構わず書きつけている。もちろん門外不出である。

オレの弱み、悩み、未熟さ、葛藤がすべてこのなかに詰まっている。

こいつにすべてを吐き出すと少しだけホッとできるんだ。

ミタセンが戻つてから一週間後のこと。

家に帰って音楽ノートをまとめようとカバンを開くも見当たらない。

からだがガタガタ震えてきた。

どこに置いてきたんだろう？

必死になつて記憶を呼び戻す。

そうだ、どうしてもうまくいかないフレーズがあつたので、ノートを取り出して小節番号を書き込んでみると、なんとなく一年女子にのぞかれているような気がしたから、なにげなく机のなかに放り込んだんだ。なにしろ、表紙ですらひとに見られるのは恥ずかしい。そこへ八幡太一がやつてきた。

「あのさー、一年でどうしてもアンブシュア（唇の形）の崩れちゃう子がいるんだ。マウスピース変えた方がいいのかなと思つてさ。ちょっと見てやつてくれないかな？」

しかたなくトランプの教室に移動したまま置き忘れてしまったのだ。
翌日は朝はやくに登校した。まっしぐらに教室へ向かい、ノートを入れたはずの机を探るが影も形もない。
ふたたび目の前が真っ暗になる。

そこへ鐘木沙耶が入ってきた。いつもこんなにはやくから学校に来ているとは知らなかった。眠たいのか大きなあくびをしながら、
「このノートって西大寺のじゃないの？ 床に落ちてたらしいよ」

「おまえ、なか見てねえだろうな？」

「なに言ってるのよ、失礼しちゃうわ。ひとのノートなんか勝手に見ません。ミタセンからメールが来たの。音楽準備室の机の上に置いておくから、西大寺に渡しといてくれて。どうしたの、こんなにはやく来て。まあ、あと二週間だからガンパローね」

「どうやら本当に目をとおしてないようだ。ホッとした。」

どうしても鐘木沙耶にだけは読まれたくなかった。近ごろはどうしても女の子として意識してしまう自分がいた。
なんとなくアイツの前ではカッコイイ自分でいたい。弱い姿は見せたくない。

この日の合奏は八時半で終わった。
「みんなかなり疲れてきたみたいだね。根を詰めるのもいいけど病気になるっちゃダメだよ。今日はいい感じにできてたから、このイメージを忘れないで」

「まっすぐ家に帰るとなんとオヤジが玄関で待っている。」

「宏敦、おまえ、吹奏楽部でオーボエをやってるらしいな」

「頭のなか真っ白になった。」
「どうしてバレたんだろう。オーボエケースを持ち歩くときは、スポーツバッグに入れて偽装していたし、家での練習だって誰にも聞かれなかったことではない。」

「さっき、おまえの高校の三田村先生って方から電話をいただいたんだ。オーボエの音のことで悩んでるみたいだから教えてやってくれな
いかって」

「あのバカ。」

「頭に血が上った。そして瞬間になにが起こったのかを理解した。」

「ミタセンはノートを拾ったあと、音楽準備室でくまなく読んでしまったのだ。」

「オレがオーボエについて音を模索していること、オヤジから習うわけにはいかないことなども全部知ってしまったのだ。あの男の辞書に
デリカシーという言葉はない。」

「それにしても、知ったことをそのまま電話で伝えてしまうとは……。」

「靴を履いたまま立ち尽くしていると、」

「いっしょに練習してみないか？」

オヤジが声をかけてくる。

もちろん断ろうと思つた。

正直に言つて、オヤジの教え方はあんまりうまくない。

でもその誘い方は以前のような命令口調ではなく、むしろ哀願あいがんするような雰囲気ふんいきさえこもっていた。玄関口から見上げると、オヤジの視線は見下ろすようなものではなく、とても控ひかえめだった。

この前の小さな背中を思い出す。

しらふのときに話しかけてくること自体、ひさしぶりだった。ここで拒否きよひしたらオヤジとの断絶は永遠に埋うまらない。そんな気がした。

「 a 」

(注) 乖離——離はなれていること。

(赤澤竜也『吹部!』による)

問一 線A～Cの本文中の意味として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

A おくびにもださなかつた

ア おびえる様子さまじさえなかつた

イ 目線めせんからも悟さとらせなかつた

ウ 演奏どうようにも動揺どうようを見せなかつた

エ 動作や態度にさえ表あらわさなかつた

B 根を詰める

ア 集中して物事に取り組む

イ 根柢こんきを明らかにしようとする

ウ 細かいことだけを気にする

エ 才能を信じて努力し続ける

C 頭に血が上った

ア 興奮して呼吸が乱れた

イ おどろきから何も考えられなくなった

ウ かつとしてわけがわからなくなった

エ 恥ずかしさで顔が熱くなった

問二 —— 線①「みんな本当に変わってしまった。」とありますが、吹奏楽部に訪れた変化はどのようなものですか。その内容として適切

なものを次のア～オから三つ選び、記号で答えなさい。

ア 部員は目標を明確にせずに、ただがむしやりに練習をし始めた。

イ 厳しい練習に耐え、積極的に部活動に取り組むようになった。

ウ 自分の音とまわりの音を調和させられるようになった。

エ ミタセンと部員たちの間に強い信頼関係が築かれていった。

オ お互いの演奏について不満ばかり言い合うようになった。

問三 —— 線②「聴かなきゃよかった。」とありますが、いくつかの演奏を聴いた後で宏敦がこのように思ったのはどうしてですか。最も

適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 演奏を聴いたことにより鏑木沙耶や八幡太一の演奏のレベルの高さに気づき、自分はコンクールメンバーから外されるかもしれない
と思ったから。

イ 今まで理想通りの演奏をしているつもりだったのに、演奏を聴いたことで自分は思い違いをしていたことに気づき、恥ずかしさを覚
えたから。

ウ ヒントを得るために聴いた演奏と自分の演奏には大きな差があり、思い通りに音を表現することができていない現実をつきつけられ
たから。

エ 演奏を聴いたことで自分は実力不足であると受け入れ、プロであるオヤジに相談したかったが、相談することができない状況だっ
たから。

問四 —— 線③「おまえ、なか見てねえだろうな？」とありますが、このような発言をしたのはどうしてですか。次の文を完成させる形で、わかりやすく説明しなさい。

ノートには 1 (十五字以内) が書かれているが、自分が 2 (十五字以内) 鈴木沙耶には 3 (十五字以内) から。

問五 —— 線④「宏敦、おまえ、吹奏楽部でオーボエをやってるらしいな」について、このとき「オヤジ」は宏敦に対してどのような心情を抱いていると考えられますか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 宏敦が悩んでいることを知り、父親として相談に乗ったりアドバイスをしたりすることで手助けしたいと思っている。
- イ 宏敦がオーボエをやっていることを嬉しく思いつつも、プロになる厳しさを教えておかなければならないと思っている。
- ウ 自分は宏敦のことを心配しているが、吹奏楽部に内緒で入ったと知り、どうして相談しなかったのか問いただそうとしている。
- エ 吹奏楽部に入った宏敦がオーボエを選んだ背景に自分の影響があると期待し、オーボエを選んだ理由を聞き出そうとしている。

問六 —— 線⑤「どうしてバレたんだろう。」とありますが、この時の宏敦の心情を説明したものととして最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア ミタセンのせいで音楽ノートの内容がオヤジに伝わってしまったことにいきどおりつつ焦りを覚えている。
- イ 自分が秘密にしていたはずのオーボエの保管場所を誰がオヤジに伝えたのか見当がつかず混乱している。
- ウ ミタセンに勝手にノートの内容を見られて自分の弱みを握られてしまったことを悔しく思っている。
- エ 自分が吹奏楽部でオーボエを吹いていることをオヤジに知られたことに驚きと気まずさを感じている。

問七 — 線⑥「靴を履いたまま立ち尽くしている」とありますが、どうしてですか。その理由として適切でないものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 自分が吹奏楽部でオーボエを吹いていることはオヤジとの衝突を避けるために秘密にしていたのに、とうとうオヤジに知られてしまったから。

イ オーボエの演奏やオヤジとの関係性について一人で抱えていた悩みが、ミタセンのデリカシーの無い行動によってかえって解決しそうな予感を覚えたから。

ウ ミタセンが自分の音楽ノートを勝手に読み、自分に何の断りもなくオヤジに連絡して内容を伝えてしまうというデリカシーの無さにあきれたから。

エ オーボエの演奏について悩んでいることは誰にも相談せずにいたが、自分の意志と関係なくミタセンやオヤジに悩んでいたことを知られて動揺したから。

問八

□ a □ には宏敦のセリフが入ります。そのセリフとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア わかった。準備するから地下で待ってて

イ いやだ。一緒に練習はしない

ウ どうしてオヤジはオーボエ奏者なんだ？

エ オヤジに教わらなくてもやってみせるよ

問九 本文の内容や表現の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア カタカナによる表記を多用することによって、深刻な場面でも読者が内容を重く受け止めすぎないような工夫がされている。

イ ミタセンは誰からも信頼される先生として描かれており、宏敦はその人柄にひかれ、何を言われても受け入れられるほど尊敬している。宏敦が語り手となって物語が進行していき、宏敦自身の内面を繊細に描くと同時に、部員たちの様子もいきいきと描いている。

エ 音楽に関する専門用語の説明や実際に演奏する部員たちの心情を丁寧に描くことで、臨場感を味わえる文章になっている。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最後にみなさんに聞きたいのは、日本をどういう国にしたいかということです。世論調査でおもしろいデータがあります。①世界を大きく北欧型とアメリカ型の二つに分類します。北欧では、税負担が重く、所得の半分近くが税金で取られる代わりに、生まれてから死ぬまで手厚い社会保障を受けます。負担は大きいけれど、サービスも多いのが「北欧型」です。

これに対し、税金は少ないけれど、その分受けられるサービスも少ないタイプの社会もあります。いわば「自己責任型」の社会です。実際のアメリカがそうかというところと違いますが、とりあえず「アメリカ型」とします。

みなさん、北欧型とアメリカ型のどちらがいいですか。政府が税金をたくさん取る代わりに手厚いサービスを受けられる社会と、国はあまりサービスしてくれないけれども負担も求めない社会。どちらがいいか手を挙げてみてください。北欧型がいい人は？

——（多数が挙手）

アメリカ型がいい人はいませんか？

——（四人が挙手）

これは日本人の志向をよく反映しています。世論調査をやっても、だいたい同じような結果が出ます。日本の場合、どこで調査しても、回答者の三分の二くらいが、北欧型がいいと答えます。日本人は北欧型の福祉国家が好きで国民なのです。

ところが矛盾があります。みなさんの中で、必要なことに使われるなら、収入の半分くらいは税金で取られてもいいよという人は手を挙げてください。

——（五、六人が挙手）

うーん。②矛盾していませんか。大半の方は、北欧型が好きと答えたのではなかったのでしょうか。

いまの日本で消費税を一〇パーセント以上に上げるのはとても難しいでしょう。しかし、そうだとすれば、日本人は矛盾していることになりませんか。北欧型の福祉国家が好きだけれど、税金を払うのはいやだということです。サービスはたくさんほしいけれど、税を負担

するのはいやだ。そう、こういうのを、「わがまま」と言います(笑)。

いま僕は国立大学法人の職員ということになっていますが、その前の身分は国家公務員でした。日本人は公務員や官僚の悪口をよく言いますよね。公務員や官僚は給料が安定していて恵まれていて。その割には、ちゃんと働いていなくて、税金を無駄遣いしている。③ なんだか公務員はみんなダメみたいない方ですよ。本当にそうなのでしようか。調べてみるとわかりますが、④ 国際的に比較して、日本は公務員の数がとても少ないのです。人口に対する公務員の割合は、先進国の中で極めて低い水準にあります。「図2-5」。その意味で、日本の政府は最も小さな政府の一つです。その割に日本政府によるサービスの水準は、社会保障を含めて、先進国の中で真ん中くらいです。最も少ない人員で中くらいのサービスをしている、そう思えばみなさん、もう少し公務員を温かい目で見たくありませんか(笑)。

それはともかく、福祉国家を望みながら、実際には小さな国家を維持している。サービスはほしいけれど、そのための税金を負担するのは嫌い。しよせん税は「a」なのでですね。自分たちの政府を維持するのに必要な費用を、自分たちの税金で「b」という発想はどうも弱いようです。「ばーんと税金を払うから福祉国家をきちんとやってくれ！」というのか、「余計なお金はびた一文払わないぞ、その代わり自己責任でやっていくから」というのか。もう一度聞きます。たくさん税金を払うから、サービスを手厚くしてくれという人はどのくらいいますか。あまり、いませんね……。

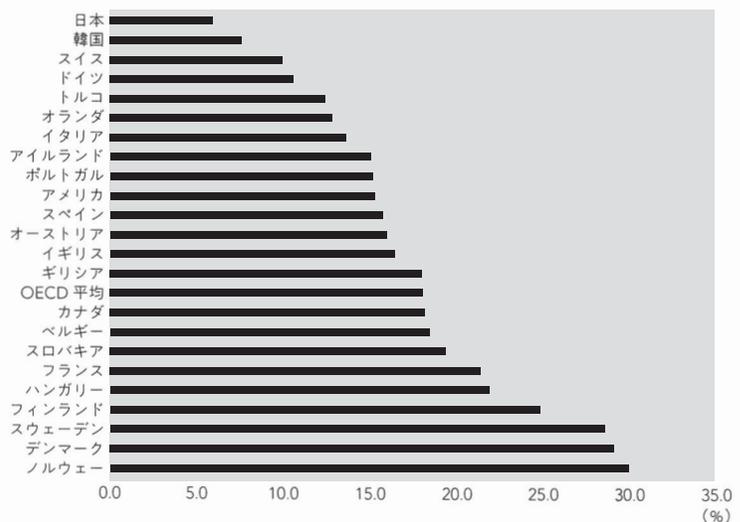
——日本政府に税金を払っても、国の借金とか年金のしわ寄せに使われて、⑤ 自分たちにはあまり返ってこないという印象だから……。

よくわかる意見です。他には、「わがまま派」の正当化として何か考えはありませんか？

——私も負担が多くても自分に還元されるものが多いなら、喜んで負担するんですけど、いま増税とかしても、⑥ 自分に返ってくる気がまったくなくて。いまの日本だったら負担はしたくないなって。

図2-5) 公務員数の国際比較 (2015年)

労働力人口に占める一般政府職員の割合



うーん、なるほど。あえて「わがまま派」と挑発しましたが、確かにそれが実感ですよ。

日本は社会支出が国際比較で中くらいだと言いました。その特徴は、大半が年金、医療、介護といった、どちらかといえば高齢者向けの対象に当てられています【図2.6】。それに対して、現役世代への支出はきわめて抑制的です。家族や住宅、失業保険、あるいは雇用人財の創出への支出は抑えられているというのが日本の特徴なのです。その意味では、確かに、いくら税を払ってもすぐに自分たちには返ってこないことになります。年を取った頃には日本の財政は破綻しているかもしれないし、そうだとすれば取られ損ですよ。その実感は、わからなくはありません。

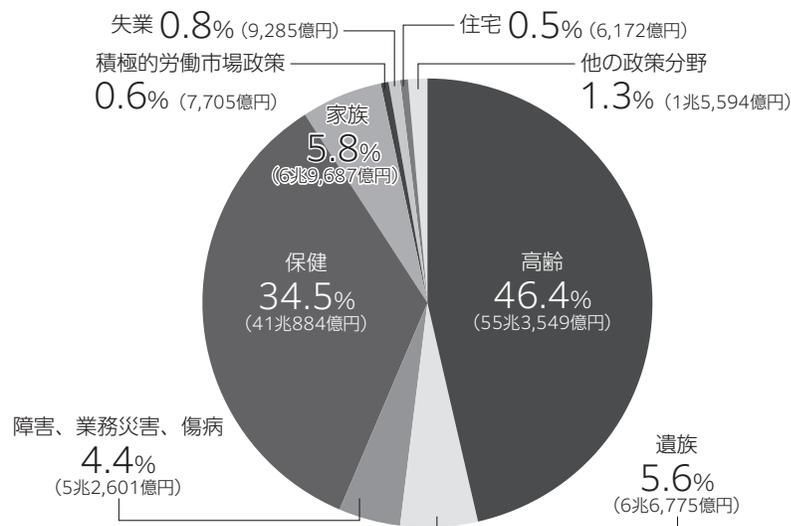
しかも、日本政府のお金の使い道は、公共事業が多い。新幹線や高速道路をつくったり、橋やトンネルをつくったり。そのような施設を整備すること自体は意味のあることですが、問題点もあります。できたところにとつてはすぐメリットがあるけれど、そうでないところにとつては意味がありません。公共事業はバラマキと言われますが、ばらまいているから悪いというよりは、ややその基準が恣意的というか、メリットのある人とな人で大きな差が出るということが問題なのです。特定の地域や人々には有益だけれど、そのような利益を享受できない人もいます。I、国民全体が等しくそのメリットを感じられない。それがいまの日本の公共支出の特徴です。

日本の税負担は、国際比較ではけつして高い方ではありません。にもかかわらず、みんなが税金を払うのを非常に嫌がりま。税負担を重く感じています。これがいまの日本の問題点なのです。

——私は、逆に日本人って税金を取られている感覚がないのかなと思います。源泉徴収で引かれているから税を自分が払っているという感覚がなくて、だから選挙の投票率が下がっているのかなと思つていたんですけど。痛税感が大きいというのには違和感があります。

ご指摘の点はすごく大切です。現在、日本人の多くはサラリーマンですよ。サラリーマンは源泉徴収されていますから、税金が最初か

【図2-6】わが国の政策分野別の社会支出（2015年度）



※国立社会保障・人口問題研究所「平成27年度社会保障費用統計」（平成29年7月）より作成。

ら引かれている。その意味では、自分がどれだけ税金を払っているかの自覚が薄いかもしれない。民主政治というのはけっして高邁（注）ちゆうまいなものではありません。自分たちがどれだけの税金を払って、その分だけのサービスを受けるかを、みんなで決めるのが大きな課題だと思えます。

日本で民主主義をめぐる議論が、ややもすれば理想論や抽象論（ちゆうしょうろん）になって、どこか宙に浮いてしまうのは、多くの人がサラリーマンのためかもしれない。自分がどれだけ税金を払っていて、その分政府に対してどれだけのものを求めるか。この点にあまり敏感（びんかん）でないとするば、民主主義もまた実感というより、イメージに基づくものになりがちです。この点、II アメリカではサラリーマンでも税金は自分で申告します。しかも連邦政府（れんぽう）にいくら、州政府にいくら、地方自治体にいくら、と分かれますから、「こんなに払ってこれしかサービ

スがいないなんておかしい」とはつきり言いますし、その結果大きな騒（さわ）ぎになります。III、日本のサラリーマンは、自分の給料からいったいいくらが税金に取られて、そのうちいくらが国・都道府県・基礎（きそ）自治体に行かなくて、ほとんど気に留めていない。だから税金の使われ方に対する感覚もあまいで、シビアになれない。その点に関してはおっしゃるとおりです。

ただ、今回お話ししたのはそれとは少し違う次元の問題です。全体として自分たちの払っている税金がちゃんと返ってきている実感がない。どこに使われているかは知らないけれど、何となく自分には返ってきていないという感覚がうつすらと蔓延（まんえん）しているのが日本の状況（じやうきやう）ではないでしょうか。これはけっして民主主義にとって、いいことではないと思います。

（注）高邁——気高くすぐれているさま。

（宇野重規『未来をはじめる』（二部改変）による）

問一 I III に入る語として最も適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア 一方 イ なぜなら ウ したがって エ たとえば オ さらに

問二 ——線①「世界を大きく北欧型とアメリカ型の二つに分類します。」とありますが、「北欧型」と「アメリカ型」は、それぞれどのような社会ですか。わかりやすく説明しなさい。

問三 ——線②「矛盾していませんか。」とありますが、筆者がそのように指摘する理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人は手厚いサービスを望んでいるが、日本の消費税を一〇パーセント以上に上げるのは難しいから。
- イ 日本人はサービスをたくさん受けたのに、サービスに必要な税金は負担しながらないから。
- ウ 日本の公務員や官僚は給料が安定して恵まれているのに、ちゃんと働かず税金を無駄遣いしているから。
- エ 日本の公務員の数はとても少ないのに、先進国としてのサービスの水準を維持できているから。

問四 ——線③「なんだか公務員はみんなダメみたいな言い方ですよ。」とありますが、筆者はどのように考えていますか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 公務員の数が他の先進国と比べて少ないにもかかわらず、税金の無駄遣いが多いので、公務員は税金に対する意識を変える必要がある。
- イ 最も少ない人員で中くらいのサービスをしている以上、全体としては優秀だが、無駄遣いばかりする一部の公務員が問題だと言える。
- ウ 日本の公務員は日本政府の方針にしたがって仕事に取り組んでいるので、公務員に対して悪口を言う日本人は誤っている。
- エ 人口に対する公務員の数が少ないにもかかわらず、先進国で中くらいのサービスを維持しており、その点は評価してもよい。

問五 ——線④「国際的に比較して」とありますが、図2-5「公務員数の国際比較」から読み取れることとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の公務員の人数と韓国の公務員の人数は、日本の方が少ない。
- イ 日本の公務員の割合はアメリカの二分の一よりも少ない。
- ウ デンマークやノルウェーの公務員は労働力人口の四分の一よりも少ない。
- エ 公務員の割合はアジアの国々が一〇パーセントを下回る一方、ヨーロッパの国々は一五パーセントを上回る。

問六

a · b

に入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア a…無駄遣いばかり b…補う
イ a…不必要なもの b…貯める
ウ a…取られるもの b…支える
エ a…増える一方 b…増やす

問七 —線⑤「自分たちにはあまり返ってこないという印象」、—線⑥「自分に返ってくる気がまったくなくて」について、次の問いに答えなさい。

- (i) これらの考えはどのような問いかけに対する意見ですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。
ア 福祉国家のようなあり方を望みながら多くの税金は払いたくないのは、どうしてか。
イ 税金を多く払うからサービスを厚くしてくれという人が少ないのは、どうしてか。
ウ 自己責任で何事も済ませるので税金は払わないと考える人が多いのは、どうしてか。
エ 「わがまま派」と言われる人たちが自分たちを正当化するのは、どうしてか。

(ii) これらの考えの根拠こんきょを本文と図2.6から読み取り、「日本の社会支出は」に続く形で説明しなさい。解答には図2.6の中の政策分野を必ず一つ以上含めて説明し、使う際には「」をつけること。例 高齢Ⅱ「高齢」

なお、図2.6の政策分野のうち、「高齢」「保健」「家族」「他の政策分野」に含まれる支出については、以下の説明を参考にすること。

「高齢」 高齢者を対象とする年金などに使われる支出。

「保健」 国が個人の医療費や介護費などを支援しえんするために使われる支出。

「家族」 子育てや育児・介護休業を支援するために使われる支出。

「他の政策分野」 生活の支援や災害救助などのために使われる支出。

問八 — 線⑦「これがいまの日本の問題点なのです。」とありますが、筆者が考える日本の税負担の問題点とはどのようなものですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 税金を払って自分に戻ってくるものが多ければ負担するが、戻ってこないようであれば増税はいやだというわがままな考え方をする人が増えていること。

イ 社会支出や公共事業による利益を受ける人と受けない人に差が出るため、国民が支払った分に見合う利点を平等に感じられず、国を維持する税金を払いたいと思わないこと。

ウ 税金の使い道がバラマキのような公共事業と無駄遣いする公務員への給料にかたよっており、国民が等しく納税のメリットを感じられない状況が続いていること。

エ 日本の税負担は国際比較では決して高い方ではなく財源は不足しているのに、他国と比べても必要以上に負担が重く感じ、増税に対する嫌悪感けんおが広まっていること。

問九 次のア～オについて、本文の内容と合うものにはA、合わないものにはBを書きなさい。

ア 社会のあり方には北欧型、アメリカ型、福祉国家型、自己責任型の四種類があり、どのような社会を望むかによっていずれかを選ぶ必要がある。

イ 多くの日本人の志向を「わがまま」と述べながら、その考えの根源にある日本の社会支出と税負担の問題点を提示している。

ウ 日本人の多くが税金を払っている自覚を持っていないことと、民主主義の実感がとぼしいことには関連性を見出すことができる。

エ アメリカ人は自分で税金を払っているため、日本人のように税負担への不満を抱えることなく、理想的な民主主義を実現している。

オ 日本のサラリーマンが自分の払う税金を気に留めず、税金の使われ方に対する感覚もあいまいであることは、日本政府にとってよいことではない。

【三】次の問いに答えなさい。

問一 次の文の「れる」と同じ使い方をしているものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

努力の成果が試される。

- ア 好物の牛丼はいくらでも食べられる。
- イ 夏に参加した合宿が思い出される。
- ウ 王子が国王に即位される。
- エ 試合には十八歳以上が出られる。
- オ ゴミから地球環境を考えさせられる。

問二 次の傍線部の述語(述部)に対応する主語を、一文節で書き抜いて答えなさい。

武家屋敷の建っていた都心部の土地は明治時代の初期に桑畑や茶畑として活用された。

問三 次の□にア～オのいずれかを入れてことわざ・慣用句を完成させるとき、一度も使わないものを一つ選び、記号で答えなさい。

□先を向ける

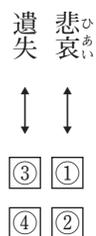
横□を入れる

□の催促

ペンは□よりも強し

- ア 剣
- イ 矛
- ウ 槍
- エ 弓
- オ 矢

問四 次の□にア～コのいずれかを入れて対義語を完成させるとき、①～④に入るものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



語群

ア	得	イ	歡 ^{かん}	ウ	無	エ	贈 ^{ぞう}	オ	悅 ^{えつ}
カ	快	キ	与 ^よ	ク	拾	ケ	榮	コ	喜

問五 次のア～エの文の順序を整えて意味の続きがはっきりした文章にするには、どのような順序にすればよいですか。はじめから順に記号で答えなさい。

ア 諸説ありますが、音をよく聞こうとしているといわれており、どこから音が聞こえてくるのかを探ったり、聞こえてくる音や言葉の意味を考えたりしているようです。

イ 犬は首をかしげるような動作をすることがありますが、これにはどのような意味があるのでしょうか。

ウ また、首をかしげた格好を飼い主が「かわいい」と喜んでくれると、それを覚えて飼い主を喜ばせようとも考えられます。

エ 犬の動作には人間の言動や気持ちを理解しようとするものもあり、そうすることでコミュニケーションをとろうとしているのではないのでしょうか。

【四】 次の①～⑩について、——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 布地を染色する。
- ② 顕微鏡で葉脈を観察する。
- ③ 気象衛星を打ち上げる。
- ④ 病気が完治する。
- ⑤ 潔い態度に心を打たれる。
- ⑥ 教室に作品をテンジする。
- ⑦ トウジが過ぎて日が長くなる。
- ⑧ ショウボウシヨを見学する。
- ⑨ 私にはユメがある。
- ⑩ 野菜をムして調理する。

解答用紙

2024
(令和6)年度

国語
東大・医進クラス
2月1日 AM

(37)

問一
A₂
E
B₂
ア
C₂
ウ

問二
イ
ウ
E
問三
ウ

問四		
3 ₂	2 ₂	1 ₂
自分	異性	人
の	と	は
弱	し	見
い	こ	ら
姿	意	れ
を	識	た
見	し	く
せ	こ	な
た	い	い
く	る	内
な		容
い		

問五
ア
問六
E
問七
イ
問八
ア
問九
ウ

(36)

問一
I₂
ウ
II₂
E
III₂
ア

問二	
アメリカ型 ₂	北歐型 ₂
税金の負担は少ないが、 ^① 手厚い社会保険を受けられる社会。 ^①	税金の負担は少ないが、 ^① 手厚い社会保険を受けられる社会。 ^①

問三
イ
問四
E
問五
イ
問六
ウ

問七	
ii ₄	i ₂
日本の社会支出は「高齢」「保健」などの高齢者に用いられる割合が ^① 高く、 ^① 現役世代への支出が ^② 少ないから。	ア

問八
イ
問九
ア
B
イ
A
ウ
A
エ
B
オ
B

(20)

問一
オ
問二
土地は^②
問三
E

問四
①
イ
②
コ
③
ク
④
ア
問五
イ ↓ ア ↓ ウ ↓ E

(10)

⑥ 展示	① せんしょく
⑦ 冬至	② ようみゃく
⑧ 消防署	③ きしょう
⑨ 夢	④ かんち
⑩ 蒸 _し	⑤ い _づ が _よ い

受験番号

座席番号

得点